

西江大学校 春季語学研修報告書

— 2011 年 3 月 1 日～26 日 —

明治大学 商学部 2 年 28 組

齋藤 遼

1. はじめに

留学中の生活を、各場面に分けて書かせていただきました。箇所によっては、日記のような形式になっていますが、私たちの生活がよりリアルにわかるよう、あえて報告書らしい形式を取りませんでした。また、この報告書では、留学中の生活だけでなく、西江大学韓国語教育院の授業や、留学前にしておくべきこと、本プログラムの改善してほしい点など、留学中に私が感じたことについても報告させていただくことにします。

2. 韓国での生活

(1) ホテルでの生活

全員4階の部屋で、男子学生は3人部屋のやや広めな部屋。しかし、ベッドは2つしかないため1つのベッドで2人一緒に寝なければならず窮屈だった。部屋はオンドルであり寒さは感じなかった。ご飯は人それぞれだったが、お米を買って自分たちで炊いて食べていた。私は、日本からカレーやスパゲッティのもとを持ってきたのでそれを食べたり、チャーハンやラーメンを作ったりした。思っていたよりも外食は少なかった。コインランドリーは2階にあるのだが、洗濯機3機、乾燥機3機と少なめ。洗濯・乾燥が終わっても取りに来ない人もいて、ずいぶん待たされたことがあった。ホテルの1階にはロッテリアがあり、歩いて30秒ほどのところにファミリーマートもあったので非常に便利だった。飲み水は各階に設置されている浄水器に水を取りにいった。お湯も出るからラーメンを作る際などは助かった。ルームクリーニングは週3回あったが、午後3時ごろから行われるので非常に厄介だった。



キッチンと洗面台

部屋の様子



(2) 学校での生活

私のクラスは全員で 16 名のクラスだった。日本人は私を含め 7 人、アメリカ人が 3 人、フランス人が 2 人、タイ人が 2 人、台湾人が 1 人、アイルランド人が 1 人だった。

授業の当初は、3 級に行く人や 1 級から上がってくる人などがいてクラスがなかなか決まらなかった。私は、アイルランド人と台湾人、フランス人と仲良くなり、よくその人たちと会話することが多かった。授業の最初は先生の話すことがわからず、また、あまりクラスの人とコミュニケーションが取れなかったため非常につらかった。ナーバスな日が続いたため、朝起きると学校に行くのが嫌で胃が痛い日々が続いた。しかし、胃が痛い日々は 10 日くらいにはほとんどなくなり、先生の話すことも分かるようになってくると、楽しく授業を受けられるようになった。

毎回内容の濃い授業をするので、4 時間の授業は非常に短く感じた。特に、最後の 1 週間はあっという間に時間が過ぎていき、もっと勉強していたと思った。



仲の良かったアイルランド人のオリバー

授業後のクラスの様子



(3) 放課後の生活

放課後は日によってやることが違ったが、週 3 回ほど Language Exchange をしてくれる方と会って話をしたり、夕食を一緒に食べに行ったりした。Language Exchange とは、日本語を学んでいる西江大学の学生と交流するプログラムのことで、会話の練習になるため、お互いにとって非常にいいプログラムだった。二人で話す内容としては、世間話のようなことが多かった。毎回電子辞書を持って行き、わからない言葉はその都度調べながら話した。Language Exchange の後、夕食を 3 回ほど食べに連れて行ってもらった。初めて食べに行った場所は広蔵市場で、少し汚そうな場所だったが、そこで食べたチヂミは最高においしかった。留学中に食べたものの中で、広蔵市場のチヂミが一番だと思う。

Language Exchange がない日は、部屋にはいないでいつも出かけていた。出かけた場所としては、大学路や仁寺洞、梨泰院に狎鷗亭、東大門などだった。狎鷗亭に行った時の話だが、狎鷗亭に行った帰りに、バスで宿所のある新村まで帰ろうと、新村方面行きのバスに乗ったと思っていたら、反対方向に行くバスに乗っていて、終点まで行って帰ってくる羽目になってしまったことがあった。帰れなかったらどうしようと若干不安だったが、なんかドキドキしてとても楽しかった。仁寺洞に行った時はテレビの撮影（ゲリラデート）に遭遇して芸能人を見ることができたが、誰だかわからなかったため少し残念だった。また、好きな歌手（CNBLUE）がゲリラライブをするということで、タイムズスクエアというところまでライブを見に行ったこともあった。約 2 時間近く外にいて猛烈に寒かった。放課後は毎日充実した日々だった。毎回宿題を終わらせてから出かけていたので、夜遅くまで遊ぶことも多かった。帰国前日は明洞でサムギョプサルを食べ、その帰りにソウルタワーに行って夜景を見た。ホントに綺麗だった。ソウルタワーにいる時、自分の中で 1 か月を振り返り、本当に 1 ヶ月があつという間だったので、もっと韓国にいたいと思った。



南山韓屋村で韓服体験



ソウルタワーからの夜景



Language Exchange をしてくれたヒョン

(4) 休日の生活

休日は毎回遊びに行っていた。最初の休日は、大場さんと明治大学の同じクラスにいる韓国人のドヨプ君、そしてドヨプ君の高校の友達のアヨンさんと4人で遊びに行った。ピザ屋で昼食を食べた後は仁寺洞へ行き、その後汝矣島の63ビルに行きソウルを一望した。次の日は、今回一緒に語学研修に来ている6人とドヨプ君、そして高瀬君の友達で明治大学に留学しているキュホン君と一緒に、COEXや宣陵などに行った。COEXでは水族館などを見て楽しんだ。ドヨプ君は蔚山の人で、ソウルにいるのはこの日までだった。KTXで蔚山まで帰るということで、僕たちもソウル駅まで見送りに行った。ドヨプがソウルを離れてしまうと思うととても悲しくて涙が出た。次の週の休みは高瀬君と二人で水原に行った。その日の前日に日本で地震があったため少し複雑な気持ちだった。水原華城は世界遺産ということで、留学中に行ってみようと思っていた場所の一つだった。日本にはない様式の建物も数多くあり、すごくきれいな場所だったが、5km以上歩いたため疲れた思い出の方が強かった。次の日はみんなで新村のパピンス屋さんに行きパピンスを食べた。その後は各自自由行動だったので、私はまだ入ったことのない景福宮に行った。外国人だけでなく、韓国人の観光客もたくさんいて驚いた。景福宮に行った後、憧れだった三清洞でのカフェを試みた。日曜日の3時過ぎだったため人がたくさんいてどこのカフェも混み合っていた。諦めムードの中、路地に入ってみると素敵なカフェを発見した。そのカフェには1組のお客さんしかいなくて、超穴場のカフェを見つけることができた。その後、宗廟へ行って、ガイドさんの案内で一周した。すごくきれいな場所で行ってよかったと思った。その後、広蔵市場で合流し、みんなで一緒にチヂミとトッポッキを食べた。この日は、時間のロスもなく、非常に充実した休日を過ごせた。

最後の休日は、ドヨプ君の地元蔚山に大場さんと二人で行った。金曜日の授業終了後急いでソウル駅に向かいKTXに乗って蔚山まで行った。蔚山ではドヨプの両親に会い、早速夕食に連れて行ってくれた。夕食は焼き肉でとてもおいしかった。特に、その際に出された水キムチが最高においしかった。ドヨプ君の家に泊まって、次の日の朝にお母さんがスープを作ってくれたのだが、そのスープが絶品だった。酸っぱくなったキムチと骨付き肉の入った辛いスープだったが、最高においしかった。今にでも食べたいスープである。この日は、ドヨプ君とドヨプ君の弟で慶州に連れて行ってくれた。世界遺産の仏国寺に連れて行ってくれた。仏国寺も水原と同じく、留学に来たら行きたい場所の一つだった。慶州では初めてジャージャー麺を食べた。思ったより美味しくて感動した。また、その際に酢豚のようなものも食べたが、それもまた絶品だった。夜はまたドヨプの両親に夕食に連れて行ってもらい、お刺身を食べた。その時にポンデギというイモムシのようなものが出され、興味本位で食べてみたがやっぱりダメだった。夕食後、前に遊んだドヨプの友達のアヨン

さんと合流して飲み屋に行った。飲み屋に行った後は、カラオケに行って楽しんだ。この日も非常に楽しい一日だった。最終日は釜山に行った。釜山に行く前に、ドヨブ君は兵役に行くため坊主にしてきた。あいにくの雨模様の中、列車で海雲台へと向かった。海雲台につくと雨はほとんど止んでいた。憧れの海雲台ビーチに興奮した。海雲台に行った後は釜山の中心街西面へ行き、クッパを食べた。冷え切った体にクッパがしみ込んだ。クッパを食べた後は釜山タワーに上った。あいにくの天気だったので全然景色は見えなかったのだけ残念だった。釜山タワーから降りてホットックを食べに行った。釜山のホットックはおいしいと聞いていたのでウキウキで食べに行った。噂通り釜山のホットックはとてもおいしかった。帰りはドヨブ君と別々なため、釜山駅でサヨナラした。ドヨブ君は、次の日から約2年間の兵役のため、軍隊に行かなければならなかったのに、この日まで僕たちのために付き合ってくれて申し訳ないと思った。でも、とてもうれしかった。このように、放課後だけでなく、休みの日も休まずにずっと動いていた。



仁寺洞にて…

COEX にて…



水原にて…

海雲台にて…



3. 西江大学韓国語教育院の授業について

1日4時間の授業で、午前9時～午後1時まで。50分間の授業で、1時間目は쓰기 (ライティング)、2・3時間は말하기 (スピーキング)、4時間目は읽기・듣기 (リーディング・リスニング) の時間割だった。基本休み時間は10分で、2時間目と3時間目の間は20分の長い休み時間が入る。長い休み時間の時は、コーヒーショップに行ったり、コンビニに行ったりできるので、ゆっくり休憩して次の授業に臨めた。

ライティングの授業は、もちろん書くことに重点を置いていて、スピーキングの時間に使った表現を文章として書いてみる授業が主体だった。ライティングといっても、常に書いているわけではなく、同じテーブルの人と一緒にスピーキングの授業のように会話をすることもあった。また、サイコロを使い、人生ゲームのような形式でマスに単語が書かれていて、そのマスに止まったら、その単語の活用を練習する授業をしたこともあった。宿題は週2、3回ほどしか出ないが、授業中に文章が書き終わらないときは宿題として次の授業の時に提出する必要があった。

スピーキングの授業は、最初から最後まで会話の練習。二日間で一つの Unit を終わらせる授業の形式で、一日目は練習、二日目は復習と応用のような授業をしていった。会話の練習は、テーブルごとで行ったり、席を立てて全員と会話したりと毎回違う形式で練習をした。たまに、代表として数人が選ばれ、みんなの前で練習の成果を発表することもあった。また、スピーキングの授業だけ他のクラスとの交流もあって、他のクラスの人が自分のクラスに来たり、自分が他のクラスに行ったりして、その時の授業で勉強した表現を活かして会話することもあった。この授業の時は、いつもより緊張感があって、みんなうまく話せないことが多かったと思う。しかし、いつもとは違う環境で勉強することで飽きずに勉強できたと感じた。スピーキングの授業では、三つの Unit が終わるごとに復習の日が置かれ、今まで使った表現を、会話を通して総復習する機会が設けられていた。復習の日には、今までの Unit で使った単語を思い出すゲームも行った。そのゲームは、クラスを二つのチームに分け、一人ずつ代表者が前に出て椅子に座る。その代表者からは見えないように、先生が単語カードをクラスの人みんなに見せ、その単語を代表者にわかるように各チームの人が説明して、チームの代表者がその単語を当てるゲーム。このゲームに勝ったチームは、飴がもらえるということで非常に盛り上がり、また、忘れていた単語を思い出すいい機会にもなった。会話の練習が盛り上がりすぎ、授業時間をオーバーすることもあったが、その時は先生が休み時間をずらし、毎回2時間目と3時間目の間は20分の休み時間が確保された。遅刻する生徒がいると、先生は罰として踊りを踊らせた。先生は、毎回同じ席に座ることを嫌っていたので、日によっては席を移動させたこともあった。席を変えることによって、普段はあまり話さない人とも話す機会を与え、授業に変化を与えたかったのかと思う。宿題は、ほぼ毎日出されたが、休み時間などを使って宿題をするのではなく、家に帰ってからするように

と注意を受けた。

リーディング・ヒヤリングの授業は、リーディングとヒヤリングを交互に行う授業の形式だった。リーディング・ヒヤリング授業では、ライティングやスピーキングの授業をととは異なり、モニターを使って授業を行うこともあった。といっても、教科書に載っている写真や文章をそのまま載せているだけなのだが、モニターを使うことによって顔は常にモニターと先生を見ている状態になり、下を向いて授業を受けることはあまりなかった。リーディングの授業は、教科書の文章を黙読して内容を読み取り、問題を解いていく形式で、先生が生徒を指名して答えさせるような授業をした。これはヒヤリングの授業も同じだった。リーディングとヒヤリングの授業ではライティングと同様にあまり会話は行わず、先生の話聞いていることが多かったように思う。リーディングとヒヤリングの授業では、必ず最後に授業で出てきた単語を復習した。この復習は、非常に効果的で、これによりあまり単語を忘れないようになったと思う。宿題は基本的になしで、テキストを復習したい人だけ提出する感じだった。

以上が西江大学韓国語教育院の授業の報告になります。今回、語学研修に参加した者の中で、レベル2を受講したのは私を含めて4人でしたが、それぞれクラスが違ったので教え方も若干違いがあると思います。特に先生によって授業の雰囲気や教え方などが異なるため、人によっては先生の好き嫌いもありました。私の場合は先生に不満はなかったのですが、先生によって楽しい授業と楽しくない授業があったのは事実です。希望によってクラスを変えることもできたと思いますが、ある程度時間が経ってしまうとクラスの雰囲気も出来上がってしまうので、クラス替えが非常にしづらい環境ではありませんでした。



西江大学のクラスのみんな

美しい景福宮



4. 留学前にしておくべきこと

ここでは、留学中に困ったこと、良かったことを踏まえて、出発前にしておいた方が
良いこと、しておいて良かったことをまとめたいと思います。

まず、留学中一番困ったことは、やはり語彙の少なさでした。当初は、授業中に先生
が話す言葉がわからず、本当に苦しみました。また、クラスの人と会話の練習をする際
も、相手が話す言葉がわからなくて迷惑をかけてしまう日々が続きました。それから必
死に単語を覚え始めると、先生の話している内容がわかるようになり、また、クラスの
人たちともスムーズにコミュニケーションが取れるようになって、自然と授業も楽しく
なってきました。留学前にもっと単語や文章の表現を勉強しておけば、最初から積極的
に授業に取り組むことができ、もっと授業の内容を吸収できたのではないかと後悔して
います。ですから、留学前には少しでも多くの単語や表現を勉強しておき、最初から授
業を楽しめる準備をしておくことをおすすめします。

逆に、留学前にしておいて良かったと思うことは、留学前に一度韓国に行っておいて
良かったということです。留学の一ヶ月前に友達と韓国旅行に行ったのですが、そのお
かげで出入国の手続きや、電車・バスなどの乗り方、お店の情報などを知ることができ
ました。一見大したことはないと思われるかもしれませんが、意外にこの旅行の経験が
役に立ち、初日からスムーズに行動できたと思います。ですから、留学に行く前には一
度旅行に行ってみて、どんなものなのか体験することは非常に良いことだと思います。

また、クラスの友達とコミュニケーションを取る上で非常に役に立ったのは、
Facebook です。私は、留学をしていた友人に **Facebook** は作っておいた方がいいよと
言われ、留学前に **Facebook** を始めました。**Facebook** を持っていることで、クラスの
人や **Language Exchange** の方と簡単に連絡を取り合えただけでなく、日本に戻ってか
らこの関係を維持することができているので、非常にいいツールだと思います。ぜひ
留学前には **Facebook** を始めていくことをおすすめします。おすすめできるツールとし
ては、韓国語入力のできる端末 (**iPhone** や **iPod touch**、スマートフォンなど) を持ち
歩くことをおすすめします。理由としては、気になった単語をどこでもメモすることが
でき、また、辞書機能の付いたスマートフォンならその場で単語の意味を調べることが
できるからです。私は、**iPod touch** を持っているのですが、**Language Exchange** の間
や電車の広告を見て気になった単語があったときは、**iPod touch** にメモして、部屋に帰
った後に調べたりしました。これによって、いろいろな表現や単語をいつでも確認する
ことができるので非常に役に立ちました。また、韓国はどこでも **Wi-Fi** が飛んでいる国
なので、**iPod touch** などを使って外でもインターネットができたのは助かりました。で
すから、韓国に留学するときは、**iPhone** や **iPod touch** のようなツールを持っていると
便利なのでおすすめします。

5. 今回のプログラムの問題点

今回のプログラムの内容に関しては満足することばかりでした。しかし、内容以外の面ではいくつかの問題点があったと感じています。生意気ではありますが、その問題点を挙げ、今後の西江大学の春季語学研修に生かしていただければありがたいと思います。

今回、春季語学研修に参加した人数は、SSPの参加者を含めて9人しかいませんでした。この原因の一つには、やはり募集期間が極端に短かったためだと思います。今回の春季語学研修には韓国語をほとんど知らない参加者もいましたが、一ヶ月という短い間にも関わらず、驚くべき早さで韓国語を習得していききました。私自身もこのプログラムによって、予想以上に韓国語の能力を伸ばすことができ非常に満足しています。それと同時に、今後も私たちのような経験をもっと多くの人にしてほしいと思いました。その為には、今回のように3～4日間という短い募集期間ではなく、1ヶ月ほどの長めの募集期間を通し、多くの学生にこのプログラムを知ってもらわなければならないと思います。今回は様々な事情があり、このような結果になってしまったのかと思います。しかし、生意気ではありますが、次回からこの募集期間に関して考え直していただき、多くの学生に留学の機会を与えていただければと思います。

二つ目の問題点として挙げられるのは、航空券代が高額すぎるという点です。今回の航空券は、一人当たりの往復で七万円を超える航空券代でした。しかし、インターネットで検索してみると、ソウルへの航空券は三万円ほどで購入できます。この価格は、今回のほぼ半額ということになります。今回は、募集から出発までの期間が短かったこともあり、航空券が高額になってしまったのだと思いますが、次回からは航空券代をもう少し抑えていただけると、金銭面で迷っている参加希望者の障壁をなくし、今回よりも参加人数が増加すると思います。

その他は細かい点になってしましますが、事前に情報が少なかったことが問題の一つに挙げられます。大したことではないのですが、今回の出発日3月1日は、韓国では国民の祝日であり、街中の銀行は休みでした。知らなかった私たちも悪いのですが、事前に祝日だと聞いていれば、レートは悪くても空港で両替をするなどできましたが、これを知らなかった私たちは、両替ができず非常に困りました。その結果、宿泊費を現金払いにしようとしていた人もクレジットカードでの支払いを余儀なくされてしまいました。また、ホテルに関しては、ホテルの部屋には机が一つしかなく、机で一人が勉強していると、もう一人は床やベッドの上で勉強しなければならず、勉強する環境としてはあまりいい環境とは言えませんでした。また、男は三人で一つの部屋だったのですが、ベッドは二つしかないため、ダブルベッドに二人で寝なければならず、睡眠環境もいいとは言えませんでした。このように、韓国に行ってからでないとわからないことが多かったので、事前にお話を聞かせていただければよかったと思っています。このような問題以外にも、空港へ迎えに来てくれる方が日本語のできない方が来たり、ホテルの宿泊

代を間違えて請求されそうになったりと、想定外のことも起きることはありましたが、これら韓国に行ってから問題は、どうにか我々で解決することのできる問題でした。

このように、細かな問題点を含めいくつか問題を見つけることができたので、次回の春季語学研修では、私たちの経験を活かして、これらの問題を少しでも無くせるようにしていただければと思っています。

6. 最後に

今回の留学は、今まで生きてきた中で最も内容の濃い一ヶ月と言っていいものとなりました。その最大の理由としては、多くの人と触れ合う機会があったからだと思います。実際、留学前はこれほど多くの人と触れ合うとは考えてもいませんでした。特に大きかった存在は、**Language Exchange** をしていただいたヒョンの存在です。ヒョンのおかげで韓国語の勉強をすることができたのはもちろん、いろいろな経験をさせてもらいました。また、明治大学で同じクラスにいる韓国人のドヨプ君の自宅に行き、ドヨプ君の両親には非常によくしていただきました。西江大学の韓国語教育院では、クラスの友達とも仲良くなり、帰国する3日前にはお別れ会を開いてくれたり、授業最後の日には先生とみんなから手紙をいただいたりしました。今回、私の留学の目的は、韓国語の能力を伸ばすということでしたが、それ以上に、いろいろな人と触れ合えたことが、私にとってはもっと大きな価値あるものだったと思います。

また、今回の留学では、外国人の語学に対する積極的な姿勢を目にして、語学に対する意識が大きく変化し、学習意欲の向上につながりました。日本に戻ってからは、韓国語だけでなく英語の勉強にも取り組んでいます。この語学に対する意識の変化をチャンスととらえ、語学力向上のために努力をしていきたいと思っています。

最後になりますが、この留学は私を精神的に大きく成長させてくれました。ここでの経験は、私の一生の思い出であり、宝です。留学前は大きな不安も抱えていましたが、今は行って良かったと心から思っています。そして、今しかできない留学のチャンスを逃さずに、この経験ができたことをとても幸せに思っています。この留学を支えていただいた全ての方に感謝したいです。

一緒に参加した明治大学の仲間たち

